

Monthly Report

Vol.52 / 2010 Sep.

東北リコー(株)との健康増進分野での提携後初の「ノルディックウォーキング」開催



9月9日、東北リコー(株)において、健康増進分野で相互協力締結後初めての「ノルディックウォーキング」が企画開催されました。20～50歳代の男女社員50名もの多くの方々が参加し、ポールを使っての基礎の歩き方をはじめとし、敷地内のひろい

スペースを利用し緩歩、急歩などを織り交ぜ効果的なウォーキング方法が佐藤久准教授より紹介されました。

東北リコー(株)の工場内で日頃から使用されている「ガイドリーダー」とよばれるイヤホンを参加者全員が装着し、佐藤久准教授の指導を各々しっかり聞きながら約1時間歩いてさわやかな汗を流していました。

ウォーキングロードとよばれる照明つきウォーキング専用コースでは、日頃から昼休みに歩く方もいるそうで、社員の健康増進のため、会社としてもノルディックウォーキングのポールを20組購入して貸し出しをするなど社員の方々の健康管理にこまやかな配慮がなされていました。終業後の時間であるにもかかわらず、自主的に50名が積極的に参加されていることがとても印象的でした。

提携前にも過去3回ほどノルディックウォーキング講座を開催していることもあり、「ノルディックウォーキング」のポールを購入された社員の方もいるようで、浸透してきている様子が伺えました。今後も東北リコー(株)の健康増進分野としての運動指導を本学が継続して支援していきます。

目次

東北リコー提携後初のノルディックウォーキング開催	1
ソマティクス講演・実技	2
海外研修 ハワイ・ロングビーチ報告	3
桜美林大学米国研修報告	5
第5体育館安全祈願祭	7
スポーツ情報マスメディア研究所のこどもスポーツ大学	8
国際スポーツ情報カンファレンス	7
学生の活躍	10

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

台東大学の劉美珠教授によるソマトイクス講演・実技



9月26 - 30日に国立台東大学から劉美珠教授をお招きし、ソマトイクス(身心学)の講演と実技指導をしていただきました。ソマトイクスとは、関節や筋肉の柔軟性を高めることによってバランスの取れた姿勢を保ち、健康を維持することができるセルフヒーリング法です。27日(月)には学生向け講演会が、28日(火)には実技指導と教員向け講演会が行われ、合わせて約230名が参加しました。

実技指導には約65名の参加があり、目を瞑って自分の身体の状態を自分で感じる感知能力を養う指導や呼吸法などが紹介され、初めて体験する不思議な感覚に、学生達も興味深げに取り組んでいました。

劉美珠教授プロフィール

- ・現職 台東大学 身心整合とレジャースポーツ産業学科教授
- ・学歴 米国オハイオ州立大学身心学博士
- ・学術領域 身心学研究、ダンス教育、身心動作教育と治療、経験解剖学



楽に起き上がる方法・・・重力と身体の構造を理解



呼吸法・・・呼吸は最も良いマッサージ方法である



目を瞑り、自分の持っている感覚能力を高める



筋膜調整・・・施術後は不思議と脚が軽くなる

海を越えて輝く学生達・先生方 Summer 2010

～ 海外研修終了 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校・ハワイ州立大学 ～

(1)カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での「仙台大学2010夏季短期集中プログラム」



8月15日～23日までカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）において「仙台大学2010夏季短期集中プログラム」が

実施されました。今回の特色は、昨年が運動栄養のみの研修だったのに対し、今年はアメリカにおける運動栄養とマネジメントの実状と課題を学ぶ「混合プログラム」となった点です。

参加したのは鎌田国際交流センター長、藤井久雄教授、柳講師、千葉学生支援室長、菊地新助手、服部新助手、広報室佐藤の7名及び、学

生は金剛地舞妃さん = 運栄4年、東勝哉さん・阿部竜治さん = マネジメント3年、齋藤良馬さん・樋口遥さん・安部翔子さん・鈴木保之香さん = マネジメント2年の7名です。

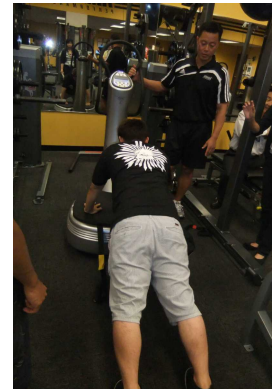
5日間に渡るプログラムでは、アメリカの大学における各競技選手達に必要な栄養素やその摂取の指導方法を学ぶのみならず、実際に選手が競技をしている現場に向いての視察など、普段、自分達が授業で勉強していることが今すぐ役立つような充

実した時間を過ごしました。

また、マネジメントでは、全米大学フットボール選手権大会の決勝会場であるローズボウル・スタジアムのリノベーションの事例や、サーフィンのUSオープン ハイティントン・ビーチ（カリフォルニア）の事例、全米第2の

都市ロサンゼルスにプロ・フットボールチームを招致するためのスタジアム案についての事例をもとに、カリフォルニアならではのスポーツイベント及びスポーツ施設に関する講義など、多彩なプログラムを展開していただきました。学生達の興味・関心も非常に高く、柳講師のリードの下、講師の方に積極的に質問をしていました。運動栄養から唯一参加した金剛地舞妃さんは「仙台大学でマネジメントの授業を受ける機会がないので、今回海外でこの分野について学ぶことができ大変新鮮でした。どの仕事についてとしても“マネジメント”することは必要であり、今後の就職活動にも研修で学んだことを必ず活かしていきます」と述べていました。

最終日には、学生達が感謝の気持ちを込め、同大学の関係者の前で仙台の「七夕祭り」について英語でプレゼンテーションをするなど、体当たりで学んだ英語の成果も披露しました。修了式でその様子を終始笑顔で見守っていたジェット・ジョシ学科長は「すばらしい発表でした。仙台大学がみなさんにとって第1の母校であるように、このCSULB校が第2の母校になることを願い、次回はもっと長期間滞在し学んで下さい」とおっしゃっていました。



(2)ハワイ州立大学での「AT(アスレティックトレーニング)アドバンスドコース」及び「若手教員のための英語研修」

8月31日～9月6日までハワイ州立大学(UH)において、AT(アスレティックトレーニング)アドバンスドコース及び、「若手教員のための英語研修」の2つが実施されました。参加したのは朴澤学長、渡会助教、白幡新助手、荒木スポーツ情報マスメディア研究所事務課長、岩田講師、菊地講師、石丸講師、早川講師、馬助教、広報室佐藤の10名と全員が体育学科3年の山口有映さん、千葉宣貴さん、狩野芳明さん、大高未来さん、松島遥春さん、田中理菜さん、鈴木菜穂美さんの7名です。

現地では、着いた初日に全学生と一部の教職員が「献体解剖」を見学しました。対応していただいた遠隔授業の講師である金岡氏をはじめUH関係者の多大なご尽力により、学生達は実際に献体に触る許可も得る事ができ、日本では到底体験できない貴重な学習をしました。



また、ワークショップでは、米国アスレティックトレーニング界で流行しているRolfingという手技を使った筋膜開放について講義を受けました。Rolfingという手法は独自の資格制度があり、ATCのみならず理学療法士など幅広い分野で取り入れられているため、この資格があれば開業することも可能で、NATA(アメリカにおけるアスレティックトレーナー公認資格の認定団体)とは関連せず独自の組織が存在するそうです。筋膜の役割とその重要性に関し、学生達は最新の情報を得ることができ、大変満足していました。

一方「若手教員のための英語研修」に参加した5名の先生方は、それぞれのプロフィールに応じて用意された講義内容に沿い、英語会話のウォーミングアップから実践編にいたるまで中味の濃い、まさしく「英語漬け」の5日間を過ごされました。特に印象に残ったシーンとして、UH学生とゲーム感覚の英会話で交流したことや、フィットネスクラブを見学し、それぞれが考えた3つの質問を発表、それが相手に伝わるかどうかを確認する外部でのアクティビティなどが挙げられるそうです。

英語研修のリーダーをなさった岩田講師は「自分の意志を正確に相手に伝えることに最も苦労しましたが、事前の勉強会などで十分に準備をするのが英語上達に必須であり、今後是非継続して学び、今回のメンバーと互いに英語力を向上させていきたいです」と語っています。

鎌田国際交流センター長によりますと、10月6日(水)16:00～F101において、これら複数の海外研修に関する学生達の合同報告会が開催されるため、参加した全学生は、現在一生懸命その準備に取り組んでいるそうです。自信とやる気に満ち、輝く彼らへの励ましと、より良い研修のためのアドバイスを賜りますよう、一人でも多くのお名前のご出席をよろしくお願いいたします。

また、同様に岩田講師をはじめとする「若手教員のための英語研修」に参加されたメンバーが10月14日(木)学術会サロンの場で報告なさるそうで、こちらもおわせて先生方にご聴講いただければ幸いです。



桜美林大学大学院のアメリカ研修に教職員2名が参加

本学では、桜美林大学大学院大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信課程）に事務職員を派遣して、事務職員のキャリアアップと資質向上を図っています。今年も、庶務課の薊職員がスクーリングに通うなどして単位習得を行っています。所属するふなと たかぎ船戸高樹教授のゼミでは、毎年夏にアメリカ研修を行っています。本年度は8月29日から9月5日の旅程で行われ、本学からは笹生講師と薊職員が参加し、全国から集まった船戸ゼミの学生17名でアメリカの高等教育機関の現状を学ぶことができました。

今年度の研修は、バーナード大学、カレッジボード、セントクララ大学、AACRAO（全米大学職員協会）、AGB（大学理事者協会）、ジョージワシントン大学といった様々な機関に所属する方々のお話を伺うという、非常に盛りだくさんのツアーとなりました。内容も、講義の改善や入試、大学が経営危機に陥った場合の対処、理事会の役割、大学評価など、大変バラエティに富んだものでした。

研修全体を通じて感じたことは、アメリカの大学関係者はいずれも「プロフェッショナル」であるという点です。教員は教育のプロであり、理事会は大学経営のプロ、職員は大学運営のプロであるという自負心が強く、お互いがお互いを尊重しつつも、しかし厳しく監視しあうという体制が敷かれていました。そのため、いずれのポジションも任期つきであり、任期内に成果を出さなければ容赦なくクビを切られます。しかし逆に優秀な人材は、次々とより好条件の職場へステップアップしていきます。例えばお話を伺ったAACRAOのJerry Sullivan氏は、30年間で6つの職場を渡り歩いたそうです。大学運営上の権限の線引きが曖昧な大学では、責任の所在があいまいになったり、教職員の職務への妥協につながるという考え方が強いのでしょうか。

また、アメリカの大学は「なぜその地域に存在するのか」という存在意義を強く問われていると感じました。言い換えるならば、地域住民や学生たちが大学に何を期待しているのかを敏感に察知し、それに答えるような教育を行わない限り、すぐに倒産してしまうということです。これはまさに日本の大学の置かれている状況と同じです。人口構造の変化や大学の果たすべき社会的役割を敏感に察知し、「うちの大学は学生に対してこういうものを提供できます」と広く社会に呼びかけていくことが必要だと思えます。

薊職員、笹生講師ともにまだ若く、今後数十年間大学経営に携わり続けると思いますので、若いうちにこのような機会を持てたことは非常に大きな財産となるでしょう。なお、同行した他大学の職員さんたちから「仙台大学さんは、事務職員と教員の仲が良いようでうらやましい」と何度も言われたことも、最後に報告しておきます。

（研修参加者 / 笹生、薊）



カレッジボードにて研修



バーナード大学にて。これが全員ではありませんが、他大学にたくさんの仲間ができたことが、最大の収穫でした。



（CAP）ジョージタウン大学の校舎。アメリカの大学はいずれも、建物がとてもきれいでした。

台東大学の梁副学長が来訪

9月17日(金)に台東大学の梁忠銘副学長と施孟隆氏が来学し、国際交流打ち合わせ・国際交流会館(仮称)見学・懇親会などを行いました。国際交流打ち合わせでは、平成15年に両大学で締結した「両大学間における国際交流に関する合意書」の延長するため、調印が交わされました。



留学生2名が日本語能力試験2級に合格



(財)日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験」が7月4日に行われ、留学生の張坤さん(写真:中)と趙倩穎さん(写真:右)の両名が、2級検定に合格しました。この日本語能力試験は、日本語能力を測定・認定することを目的としており、2級検定では、日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる能力が求められます。今回の2人の合格に他の留学生が刺激を受けたようで、既に12名の留学生が12月5日に行われる今年度第2回目の日本語能力試験の受験に申し込んでいるそうです。

留学生が続々と来日



中国と台湾から来日した留学生と、朴澤学長はじめ関係教職員との顔合わせが、9月17日(金)に行われました。

中国から来日したのは23年度大学院入学予定の留学生7名(吉林体育学院2名、上海体育学院2名、瀋陽師範大学2名、東北師範大学1名)です。大学院入学予定留学生には今年から本学の

新たな取組みとして、東北多文化アカデミー(仙台市青葉区大手町)の協力を得て、10~12月の3ヶ月間日本語の教育を受けてもらうこととなりました。これは、大学院の講義についていくためにも日本語の能力を上げることで、講義の内容をより理解しやすくなることが期待されています。この期間、留学生は本学を離れ、同校の寮に入って日本語を学びます。

台湾(台東大学)から来日したのは科目等履修生の7名で、今年度後期から本学の学部生とともに講義を受講します。このうち2名はダブルディグリー(両大学の学位取得)を目的に2年間の滞在、他の5名は交換留学生として1年間滞在学习します。

14名の留学生は日本語をある程度勉強してきているため、ほぼ全員が自己紹介は日本語で行い、自分の専攻領域や仙台大学で学びたいことなどを話していました。

第5体育館新築工事 安全祈願祭



平成23年度3月31日竣工予定の「第5体育館」の建設工事が始まりました。9月8日(水)には安全祈願祭が執り行われ、柴田町役場や区長などの来賓の皆さまをはじめ、設計・施工業者である鹿島建設(株)と本学の関係者が参列し、工事の安全



を祈願しました。この「第5体育館」の建築面積は3,592.41㎡で、観客席(240席)を有するアリーナと研究施設(3階建て)を兼ね備えた施設となります。

就職活動キックオフセミナー



9月22日(水)に第1回就職ガイダンス「就職活動キックオフセミナー」が開催され、学生約400名が参加しました。セミナーは2回に分けて行われ、午前中には3年生の就活塾生を対象とした

SPI試験をF303教室で、午後からはB300教室において3学年の一般学生を対象にした「就職のイロハ」についての説明会が開催されました。午後のガイダンスでは、創職作業チームの齋藤博教授より就職活動における心構えについての話しや、佐々木事務局長兼入試創職室室長より今年度の就職状況並びに来年度の就職戦線が引き続き厳しい状況となるであろうという予測のもと、早めに就職活動をすることが何よりも重要であるという説明がなされました。その後、(株)ディスコ東北支社の富田京子氏より就職活動の基本や今後の流れなど、就職活動のポイントについて講演いただきました。学生達はこれからスタートする就職活動への意識が高まったようです。

平成22年度9月期卒業式を挙行

9月29日(水)にA棟大会議室において平成22年度9月期卒業証書・学位記授与式を挙行しまし

ました。今回、卒業したのは体育学科の武者庄一さん1名で、関係教職員が参列する中、朴澤学長より卒業証書・学位記が授与されました。



スポーツの楽しさを学ぶ「こどもスポーツ大学」開催



スポーツ情報マスメディア研究所(ISIM)は9月10日(金)から2泊3日の日程で、「こどもスポーツ大学 in SHIMOKAWA」(北海道下川町)を開催しました。これは、北海道北部の5市町村

<スポーツ情報マスメディア研究所より>

(下川、美深、中川、名寄、音威子府)でつくる上川北部広域スポーツクラブからの受託研究として行ったもので、体力テストなどで選ばれた将来性あるSnow Kidsを中心に、小学4年生から6年生まで16名が参加しました。今年は「ユニホック」というニュースポーツのゲームをしながらスポーツの楽しさを学んでもらおうと、そのためのルールや仲間の大切さ、力を合わせてプレーすることの必要性を伝えました。参加したこども達からは「とても楽しかった」「中学生になってもまた来たい」といった声が聞かれました。ISIMの勝田隆所長は「たとえ、こども達が今回学んだことを今、理解できなくても、そのこころに学びの種を残せたら」と、その思いを語っていました。

新潟県でも初の「こどもスポーツ大学」開催



9月18日(土)から2泊3日の日程で「こどもスポーツ大学 in NAGAOKA」(新潟県長岡市)が開かれました。これは、「トップアスリートを目指すために学んでおくべきこと」をメインテーマに子どもたちに何か出来ないかと考えた長岡市体育協会が、本学スポーツ情報マスメディア研

<スポーツ情報マスメディア研究所より>

究所(ISIM)に委託した研究の一環です。長岡市での開催は今回が初めてとなりました。プログラムにはスポーツ団体に所属する小学生32名が参加し、タグラグビーを通じて、「スポーツを楽しむ力」を学びました。開始にあたり勝田ISIM所長より「外へ出なければ、本当の冒険や経験・発見には出逢えない」ことが伝えられ、子どもたちは少しずつ自分の苦手なことに挑戦し、スポーツができることに感謝する心を育みました。



陸上競技部の佐藤寛大さんがやり投げでインカレ2連覇



9月10日（金）に行われた陸上競技の日本学生対校選手権（インカレ）男子やり投げで佐藤のぶひろ寛大さんが自己新記録の76m57で見事、2連覇を果たしました。9月13日（月）には陸上競技部の藤井部長とともに朴澤学長に優勝報告を行い、「2連覇は今年目標の一つでしたので、自己記録を更新して優勝できたことにはたいへん満足しています。しかし、もう一つの目標である78mの投擲を達成するために、もう一度気を引き締め、来月（10/4）の国体では更に記録を伸ばせるよう頑張ります。」と話し、次のステップに向けて意欲をみせていました。

柔道部の深谷実紀さんが全日本ジュニア選手権44kg級優勝

～ 10月開催の世界ジュニア選手権代表に～



9月18日（土）に埼玉県立武道館で柔道の全日本ジュニア選手権大会が開催され、女子44kg級にふかや みき深谷実紀さん（体育学科1年）が出場しました。深谷さんは第1シードの重圧を感じながらも、3試合を危なげない内容（一本勝ち）で勝ち進み、

決勝戦で一本勝ちこそ奪えなかったものの、優勢勝ちで優勝しました。その後の強化委員会において正式に10月末に行われる世界ジュニア選手権大会（モロッコ）の代表選手に選考されました。

9月22日（水）には南條和恵監督とともに学長室を訪れ、朴澤学長に優勝報告を行い、世界ジュニア選手権での必勝を誓いました。

深谷実紀さん（体育学科1年）

5月のフランスジュニア国際大会では優勝したものの、外国人選手の長い手足に対処できず、先にポイントを取られる苦しい内容でした。残り1ヶ月でしっかりと外国人対策を行い、世界ジュニア選手権では自分の持ち味である攻め続ける柔道で金メダルを目指します。

漕艇部が全日本選手権大会2種目で3位に

9月9 - 12日に社会人・大学チームでボート日本一を決める第88回全日本選手権大会が戸田漕艇場（埼玉県）で開催されました。本学漕艇部は社会人チームとも対等以上のレース運びで大健闘し、「男子舵手なしフォア」と「女子舵手なしペア」の2種目で第3位に入りました。



全日本プッシュスケルトン選手権大会に「伊達なSPORT PROJECT」選手たちが初出場

～ 2012ユースオリンピックにむけた第一歩～



写真提供：伊達なSPORT PROJECT

今年4月にスタートしました「伊達なSPORT PROJECT」の選手たちが、9月25日(土)に長野県スパイラルで行われた2010全日本プッシュスケ

ルトン選手権大会で、公式大会デビューを飾りました。

この大会は、氷上ではなくレール上でタイムを競うもので、本学学生や日本のトップ選手も参加する中で、ユースオリンピック出場にむけた大事な一歩を踏みました。大会の詳細はこちらで紹介されていますのでご覧ください。なお、男子の部ではOBの高橋弘篤選手(平成19年度卒 / 株式会社所属)女子の部では小室希さん(院2年)が優勝、小林真衣さん(体育学科1年)が3位入賞しました。

【成績】

男子の部

佐藤 弾さん(柴田高1年)・・・第22位

野倉 大貴さん(柴田高1年)・・・ケガで欠場

女子の部

安藤 早紀さん(柴田高1年)・・・第9位

トライアスロン部 インカレ結果



写真 / 先頭が上村昌志さん

9月12日(日)に香川県観音寺市で行われた日本学生トライアスロン選手権大会(インカレ)に出場したトライアスロン部は、チームの上位3名の合計タイムで競う男子団体戦で7位(6時間13分38秒)、個人でも上村昌志さん(体育学科4年)が7位に入りました。今大会の上位3チームには来年5月に開催される学生選抜選手権大会の出場資格、個人上位3名には10月開催の日本選手権の参加資格が与えられるため、この枠に入ることが一つの目標となります。今大会では惜し

くも出場権獲得には至りませんでした。今後も出場資格が与えられる大会が残っているため、トライアスロン部の挑戦はこれからも続いていきます。

上村昌志さん(体育学科4年)

今年のトライアスロン部のスローガンは「一(いち)」で、インカレでも団体戦一位を目指し、部員全員が努力を重ねてきましたし、それを狙えるメンバーでした。結果的には望んだ成績には届きませんでしたが、個々のベストを尽くした結果なので、満足しています。

後輩達は相当な力をつけてきており、来年のチームも楽しみです。特に、来年2月に開催される「学生デュアスロン大会」ではランとバイクを得意としている有力なメンバーが揃っているので是非優勝し、学生選抜大会の出場権を獲得して欲しいです。そして、自分達が達成できなかった“学生日本一”を是非実現してもらいたいです。

自分が出場する大会も残り少なくなってきましたが、10月3日(日)に群馬県で開催される学生スプリント選手権大会も、チーム一丸となって頑張ります。

本学OB田中美衣選手、朴澤学長を表敬



柔道世界選手権東京大会に出場し、女子63kg級で堂々の銀メダルを獲得した、田中美衣選手(ぎふ柔道クラブ24/H22年3月卒)が、本学を訪れて朴澤学長に大会の報告を行いました。大会会場まで応援に駆けつけた朴澤学長からは、決勝で前回チャンピオンの上野順恵選手(三井住友海上火災)に判定で惜しくも敗れたもの

の、1回戦から準決勝までを、すべて一本勝ちした田中選手を讃え、次のステップに向けた金メダルへの期待の言葉が述べられました。田中選手も「応援ありがとうございました。仙台大学からの声援は試合中も聞こえ、励みになりました。今後、勝てる試合は必ず勝っていきます」と誓っていました。今大会で獲得したポイントも含めると、田中選手の世界ランキング(9月15日現在)は6位、2年後のロンドンオリンピックも見えてきました。

翌日には柴田町の滝口町長を表敬訪問し、町長から「田中選手の活躍は、仙台大学と所在する柴田町民の良い励みとなります。今後の活躍も楽しみにしています。」との激励をいただきました。



＜田中美衣選手へインタビュー＞

問 柔道世界選手権銀メダルおめでとうございます。そしてお疲れ様でした。今回、世界選手権へ出場しての感想をお聞かせください。

美衣 恩師である南條和恵監督が出場された1997年パリの世界選手権大会での結果(3回戦敗退)の結果を越えたいというのが今大会の目標でした。和恵監督からは「記録は抜くためにあるもの」と言われていました。決勝で勝てなかったのが悔しいです。大学からも学長をはじめ沢山の応援団が会場に駆けつけてくださり、試合場でも声が届いて心強く後押しとなりました。後輩たち、そして先輩たちも多く会場に来て応援くださったのがありがたかったです。

問 南條総監督、和恵監督から試合前にいただいたメッセージなどがあれば。

美衣 南條監督の声は、試合中もよく聞こえました。どんな喧騒でも聞き分けられるので。決勝前に、「舞台は整った。ここで勝つことは意味が違うぞ。」と南條監督、和恵監督に激励を受け、決勝戦に臨みました。

問 仙台大学を卒業して、今年社会人1年目ですが現在の環境には慣れましたか？

美衣 代表海外遠征が多く、まだ落ち着いていないものの、現在住んでいるつくば市には関東に強いチームや、実業団など練習相手が多く、出稽古に出掛けられるので非常にありがたい環境です。ナショナルチーム強化指定ということもあり、JISSでも毎週トレーニングをしています。

問 柔道部の後輩へ、あらためてメッセージを。

美衣 卒業してもコンスタントに仙台大学の柔道場に帰ってきているのは、南條総監督、和恵監督の教えを請いたいからですが、後輩たちの頑張りを見て私も良い刺激を受けているというのがあります。6月の全日本学生選手権大会もよく頑張ったと思います。練習場所は違いますが一緒に切磋琢磨できればと思っています。そしていつか後輩のだけかと、講道館杯で対戦したいです。

問 今回の結果で、女子63kg級で国内2位のポジションを得ましたが、1位になるためにこれからの目標は？

美衣 国際大会で安定した結果を確実に出していくこと、一戦一戦を大事に、勝てる試合は確実にものにしていきます。

OBの植松鉦治選手(コナミ)が体操の全日本社会人選手権で男子個人総合初優勝



社会人日本一を決める体操競技の全日本社会人選手権が9月10日(金)に行われ、OBの植松鉦治選手(コナミ/平成20年度卒)が得意の鉄棒で16,300点の高得点をマークするなどして男子個人総合で初優勝を果たしました。植松選手は10月に行われる世界選手権代表にも選ばれており、日本を代表する選手として今後益々の活躍が期待されています。

同窓会情報

<丸山大学院研究科長より情報提供>



9月8日、教育実習の巡回指導で北海道の標津高校へ行ってきました。その晩、仙台大学同窓会とやま こうじの根室・釧路支部の支部長・外山浩司氏(標津町立薫別中学校校長, 第7期, 水泳部, 写真中)、事務局長の林良彦氏(標津町総合体育

館館長, 第8期, 卓球部, 同右)、および標津高校校長の宮崎真彰氏みやざき まさあき(第11期, ラグビー部, 同左)が歓迎会を開いてくれました。

昔話に花が咲くと同時に、同地区には同窓生がかなりいる事(町内在住の教員だけでも8名)、同窓会を毎年5月に開催するなど、支部活動が活発な事、さらに来年10月に、第5回全国スポーツクラブ会議(スポーツクラブ・サミット)が標津町で行われ、現在、林氏を中心に準備を進めていることなどが話題となりました。

クラブサミットの件では、講演やシンポジストで大学の協力を依頼されました。具体化しましたら連絡が来る事になっております。その節にはご協力をお願いします。

肝心の教育実習生(健康福祉学科, 田中麻美)も高い評価を得て、実習を行っていました。